北アルプス　冬季　後立山黒部支谷横断

日時：2006 年 2 月 22 日～月 5 日

メンバー：CL 伊藤達夫（コーチ）、渡辺志保

概要：黒部は不思議なところだと思う。山深く険しい一方で、ダムやトンネルなどの巨大な人工物が存在する。そのアンバランスさに違和感も覚えるが、山深い黒部の自然にはやはり言い表せない魅力が潜んでいる気がする。

その黒部、しかも冬の黒部に昔の猟師は入っていたらしい。カモシカを獲るために。有名な猟師，小林喜作も大正12年2月にカモシカ猟で来ていた棒小屋沢で雪崩にあって死んでいる。

冬の黒部で、沢をベースに猟をしていたなんて、夢のようでもあり怖くもある。しかしそんな山に導かれるように、小林喜作が行ったというカモシカ猟のルートを尋ねて2月の黒部に入った。

記録

2月22日　晴

大町アルペンラインゲート（7:40）－扇沢（9：50/10：25）－新越尾根標高 2000m(14：50)

前日ゲートにて車ビバーク。私は寝不足のせいか遅い。カモシカのやわらかな毛が空気を含んで光の中で揺れていた。扇沢に付く頃には日も照ってしまいできれば行きたいと思っていた扇沢を詰めることができない。新越尾根に取り付く。雪の状態がいいのでアイゼンで。ここで伊藤先生のプラブーツ（10 年もの？）が破けていることが発覚する。新越尾根のダケカンバのある適当なところでテントを張っていると、岩小屋沢岳南尾根の方から雪崩が出た。

2月23日　曇のち晴

新越尾根標高 2000m(6:50)－岩小屋沢岳(10：45/11：10)－棒小屋沢中尾根標高 1750m(15：55)

右手に昨日とは異なる雪崩の跡を見る。硬くなった斜面を岩小屋沢岳目指して登る。岩小屋沢岳を越え、棒小屋沢に向かって降りる尾根の分岐に向かう最中、わたしの足がハイマツにひっかかった、と思ったら滑落。止まって見たらアイゼンがはずれていた。とても反省。

気を取り直して、棒小屋沢中尾根の分岐に向かう。棒小屋沢に降りても大丈夫なんだろうかと少し

棒小屋沢中尾根より黒部別山と劔東面

不安になるが、この頃になると天気もよく、なんとかなるような気がした。

雪を纏った剱岳が美しい。黒部別山は上部しか見えない。標高2000くらいからガスになった。この尾根は傾斜がゆるく、そのせいもあるのか樹林帯に入ると動物の足跡が多い。下っているうち本来降りようと思っていた尾根より多少東側に行ってしまった。

2月24日　曇

棒小屋沢中尾根標高 1750m(07:05)―棒小屋沢(7:40/8:15)―牛首尾根標高 2200m(16:20)

この日は棒小屋沢を横切らねばならず、朝急いで降りた。途中から急なルンゼに入って降りた。棒小屋沢は雪崩がきたらいやだったので怖かった。そこから牛首尾根上の標高 2303mのピークに行き着く名前のない尾根に取り付いた。はじめは雪がぐずぐずだったが登るうちに良くなった。2303mのピークまで行かずに左にそれ、牛首尾根の傾斜が緩く針葉樹林に囲まれた場所に張った。

棒小屋沢の横断

2月25日　快晴

牛首尾根標高 2200m(7:45)－鹿島槍ヶ岳南峰(11:40/12:05)－牛首尾根標高 2200m(14:30)

とんでもなく晴れた。鹿島槍南峰にアタック。天気がいいついでに明日降りる予定の、名前のない、東谷に降りる尾根がわかる様に、その分岐に赤布を巻いておく。鹿島槍南峰からは遠く遠くまで見渡せた。鳥になったみたいだ。剱もきれい。

2月26日　雪

停滞。東谷に降りる予定だったが天気がよくなかったので停滞した。

2月27日　曇時々雪

牛首尾根標高 2200m(7:45)―東谷―東谷尾根標高 2040m

昨日つけた赤布のおかげで鹿島ウラ沢と東谷の間の尾根を迷うことなく下りはじめる。途中で枯れたまま立っている大きな針葉樹があった。樹皮もなく、骨みたいだ。生き様、という感じがした。東谷は棒小屋沢より小さかった。やっぱり怖かったのでさっさと登りたかった。こんなところで猟をしてたなんて信じられない。東谷山標高2001m 支稜を登る。その後一箇所キノコ雪があってザイルを出した。越えたところで暗くなりテントを張った。星が綺麗だった。

2月28日　晴のち曇

東谷尾根 2040m(7:05)―五竜岳(12:20/12:40)―天狗岳北西のコル(17:35)

五竜を越える。今回で一番雪面がクラストしている。そんな木もちょっとしかない雪面の向こうにカモシカがいた。こちらを見ていつまでも首をかしげている。こちらが動くとあわてて硬い雪面を、ものすごいスピードでダッシュして逃げていた。速い！木のある所まで走って止まっていた。

五竜を越えるともう黒部じゃないんだと思って、テンションが下がってしまい、気を抜かないように気をつけた。

五竜山荘で県警のヘリが近くに来た。こんなと

東谷山付近より鹿島槍北西面

きに登っている人はあんまりいないだろうな。五竜山荘から白岳を巻き、西遠見山、大遠見山、中遠見山、小遠見山をうだうだと行き天狗岳の手前のコルで張った。

白岳のトラバース

3月1日　雪
天狗岳北西のコル(8:05)－天狗岳(8:35)―大谷原 12:40
　天狗岳を越えて大谷原まで降りた。傾斜が緩く、見通しが利かないので分岐ははずさない様に降りた。大谷原からゲートまではタクシーで戻った。

おわりに

　2 月とは思えないくらいの天気に恵まれ、黒部の神様がプレゼントしてくれたとしか思えない山行だった。黒部の神様にありがとうと言いたい。
　この山行は大正時代の猟師である小林喜作がカモシカ猟のために行ったというルートを逆にたどったものだ。ただ当時としても冒険的な要素が多かったらしく、この猟で喜作は雪崩にあって亡くなっている。
　私たちは遊びとして登っているから、彼らの山とはぜんぜん違う。生活のために、冬の黒部に入るとはどういうことなのか、わたしには分からない。きっとそこには言葉に表せないほどの貧しさがあったのだろうと思う。
　正月の冬山を敗退して、私はどうしていいかわからなくなっていた。私はどうしても冬の黒部に行きたかった。理由もよく分からなかった。ただただ全身で冬を求めているのが分かった。
　山が好きということが、山がすばらしいことが、日常にも夢やエネルギーを与えてくれる。猟師もただ貧しさのためじゃなく、山のすばらしさを感じながら入っていたのだろうか、そうであったらほんとうに嬉しい。
　色々あるから悲しいこともあるけれど、懸命に今を生きたいと思う。自分も人も大事にして、明るい方にもっていきたいと思う。
　最後になりましたが、一緒に行ってくれた伊藤先生にはたいへんお世話になりました。ありがとうございます。あと、牛田先生をはじめ山岳部のみなさん、ありがとうございました。
（記/渡辺）

以下余白地図挿入検討